

「ひきこもり等に関する調査」の結果

令和元年 6 月 長野県健康福祉部・県民文化部

1 調査の趣旨等

近年、若者のひきこもりの問題だけでなく中高年のひきこもりも、これまで生活を支えていた親が高齢化のため病気や介護状態になることにより、一家が生活困窮や社会的に孤立する「8050 問題」と呼ばれる事例が見受けられる。

ひきこもりの背景や要因は多様であること。また、親が健在で一定の経済力がある場合は、問題が顕在化しないことや、ひきこもりの長期化や親の高齢化が同時進行することによって生活困窮等の問題にも繋がっていくこと。さらには家族が問題を抱え込んで、支援を望んでいないケースもあることから、社会での多面的・総合的なアプローチが必要と思慮される。

国では、平成 30 年 12 月に満 40 歳から 64 歳までのひきこもりの実態調査を行っているが、本県においては全県的なひきこもりの実態調査は行っておらず、今後のひきこもり施策の展開を検討する上では、実態を把握することが必要であることから、調査を実施することとした。

なお、本調査は、長野県民生委員児童委員協議会連合会及び各市町村民生委員児童委員協議会の協力を得て、県内で活動している民生委員・児童委員の方を対象に、担当している地区において現在把握している情報をアンケート用紙に記入してもらう手法とした。

2 実施主体

長野県及び市町村による共同実施

3 ひきこもり等の該当者

この調査では、概ね 15 歳から 65 歳未満の者で、次に該当するような方を「ひきこもりの状態にある方」とした。

(1) 社会的参加(仕事・学校・家庭以外の人との交流など)ができない状態が概ね 6 か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の方

(2) 社会的参加ができない状態であるが、時々買い物などで外出することがある方

※ただし、在宅での訪問診療、介護保険や障がい福祉サービス等を受給されている方は除く。

4 調査基準日

平成 31 年 2 月 1 日

5 調査方法

県内の民生委員・児童委員全員に対するアンケート調査

6 回収結果(有効回収率)

4,505 人(89.4%)

※5,040 人の民生委員・児童委員に回答依頼

7 調査結果

(1) 該当者の人数

○本調査により把握できた該当者の総数は、2,290 人となっている。

※アンケート全数の回答があったものとして、以下の出現率により推計すると、2,561 人

○人口当たりの該当者の割合は、0.20%となっている。

(平成 30 年 10 月 1 日現在の 15 歳以上 64 歳までの人口 1,147,585 人に占める割合)

○人口当たりの該当者の割合は、市部は 0.16%、町村部は 0.36%となっている。

表 1

	該当者数	15歳以上64歳以下の人口	出現率
長野県	2,290人	1,147,585人	0.20%
参 考	19市		0.16%
	58町村		0.36%

(2) 該当者の性別

○該当者の性別は、男性が 72.9%、女性が 21.8%、不明が 5.3%となっており、男性が 3/4 近くを占める割合となっている。

グラフ1

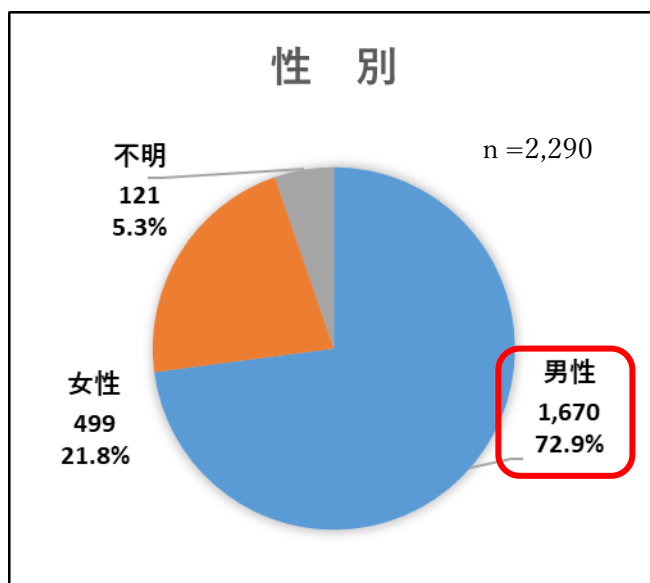


表 2 (単位：人)

性別	該当者数	割合
男性	1,670	72.9%
女性	499	21.8%
不明	121	5.3%
合計	2,290	-

(3) 該当者の年代別性別状況

- 年代別では、40歳代が最も多く、次いで50歳代、30歳代となっている。
- 「若年層」と「中高年層」に分けてみると、15歳から39歳までの「若年層」が825人、36.9%、40歳以上の「中高年層」が1,412人、63.1%となっている。
- 男女別では、各年代とも男性の割合が50%を超えている。
 男性は40歳代が最も多く、次いで50歳代、30歳代の順となっている。
 女性は40歳代が最も多く、次いで30歳代、50歳代の順となっている。

グラフ2

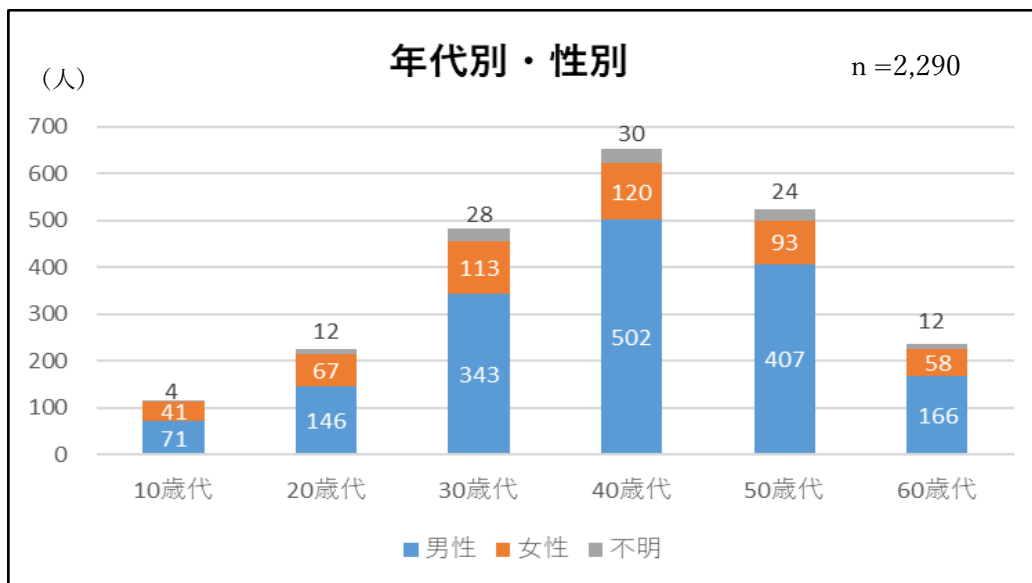


表3

(単位：人)

年代	男性	女性	不明	合計	年代別割合	「若年層」 「中高年層」	割合
10歳代	71	41	4	116	5.1%	825	36.9%
20歳代	146	67	12	225	9.8%		
30歳代	343	113	28	484	21.1%		
40歳代	502	120	30	652	28.5%	1,412	63.1%
50歳代	407	93	24	524	22.9%		
60歳代	166	58	12	236	10.3%		
小計	1,635	492	110	2,237			
不明	35	7	11	53			
合計	1,670	499	121	2,290		2,237	

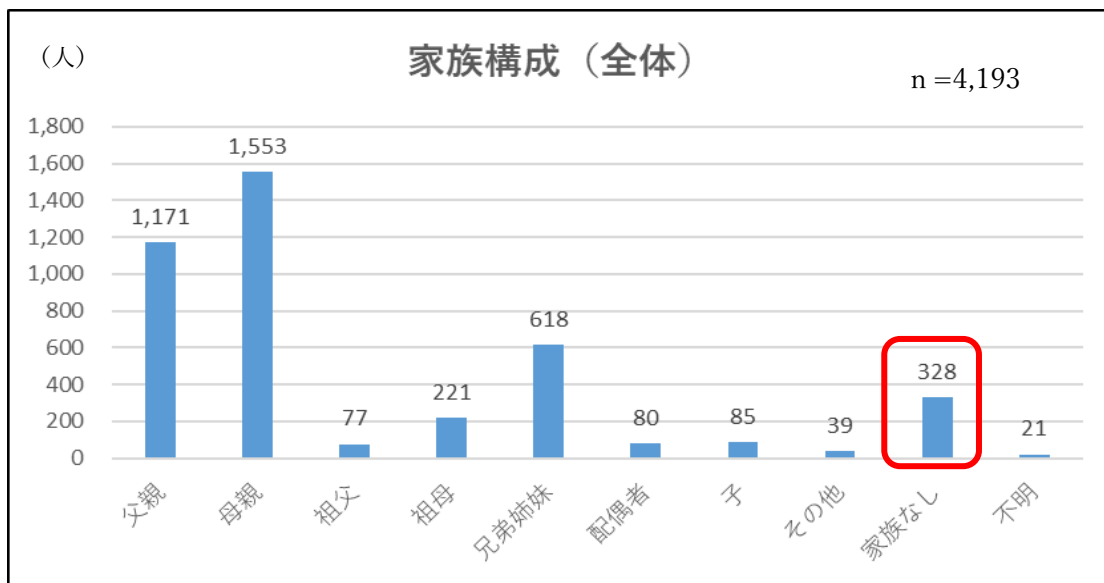
(4) 該当者の家族構成(複数回答可)

○「家族なし(一人暮らし)」は 328 人で、14.3%(該当者 2,290 人に占める割合)であり、母親との同居を筆頭に、8割以上は家族と同居している。

○10 歳代から 50 歳代は、父親、母親と同居している数が多い。

○「家族なし(一人暮らし)」328 人に占める割合は、60 歳代 39.6%、50 歳代 38.7%、40 歳代 16.1% の順となっている。20 歳代以下の「家族なし(一人暮らし)」は2人のみとなっている。

グラフ 3-1



グラフ 3-2

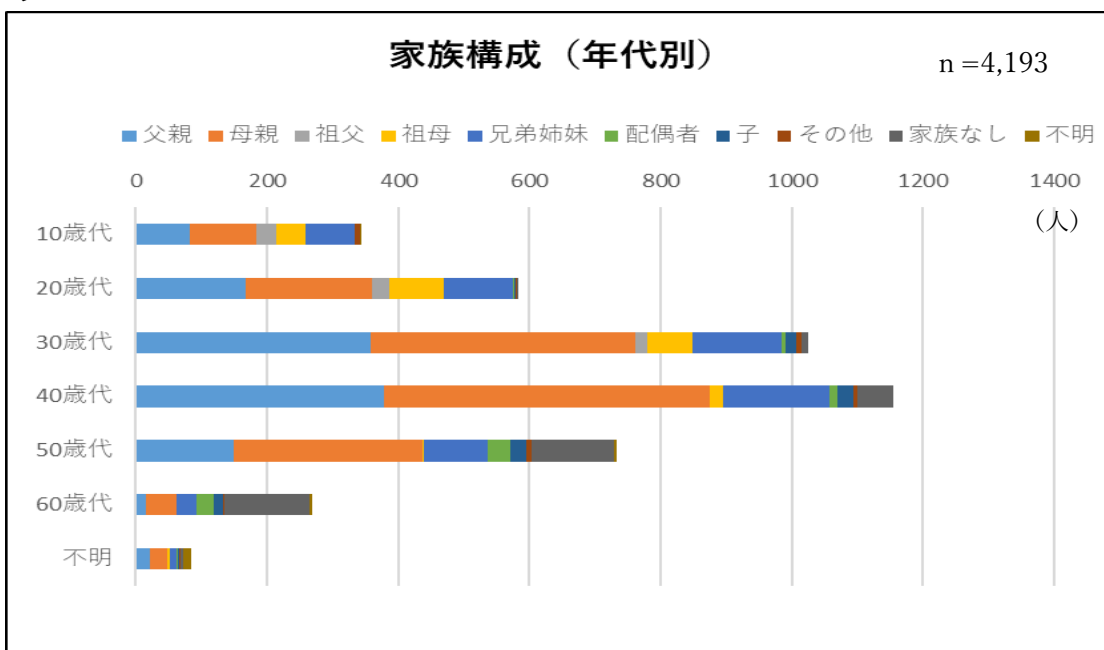


表4

(単位：人)

年代	父親	母親	祖父	祖母	兄弟姉妹	配偶者	子	その他	家族なし	不明	合計
10歳代	82	101	32	43	75	0	0	8	0	2	343
20歳代	167	193	27	83	105	1	2	4	2	0	584
30歳代	357	405	17	69	137	5	16	9	11	0	1,026
40歳代	378	496	1	20	162	13	23	8	53	0	1,154
50歳代	149	288	0	2	98	33	26	7	127	4	734
60歳代	16	45	0	0	31	26	15	2	130	3	268
不明	22	25	0	4	10	2	3	1	5	12	84
合計	1,171	1,553	77	221	618	80	85	39	328	21	4,193

(5) 該当者の把握(複数回答可)

○把握の方法としては、「民生委員・児童委員本人が把握」、「近隣住民が把握」、「行政機関等が把握」の順となっている。

グラフ4

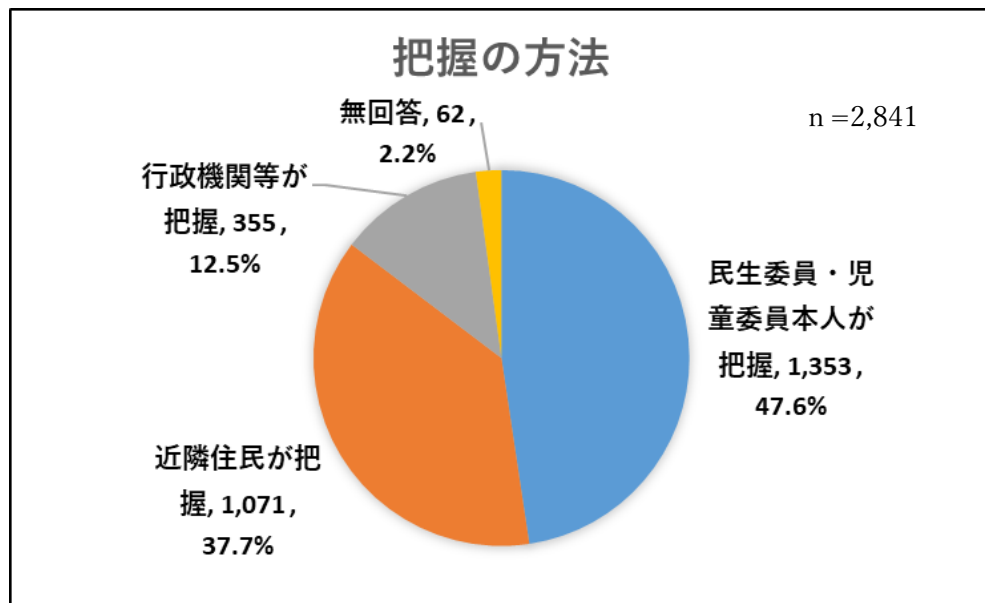


表5

(単位：人)

どのように把握したか	該当者数
民生委員・児童委員本人が把握	1,353
近隣住民が把握	1,071
行政機関等が把握	355
無回答	62

(6) 該当者の状況

○「みかけたことがある」が、全体の 37.5%、「姿を見たことがない」が全体の 34.4%であった。

グラフ5

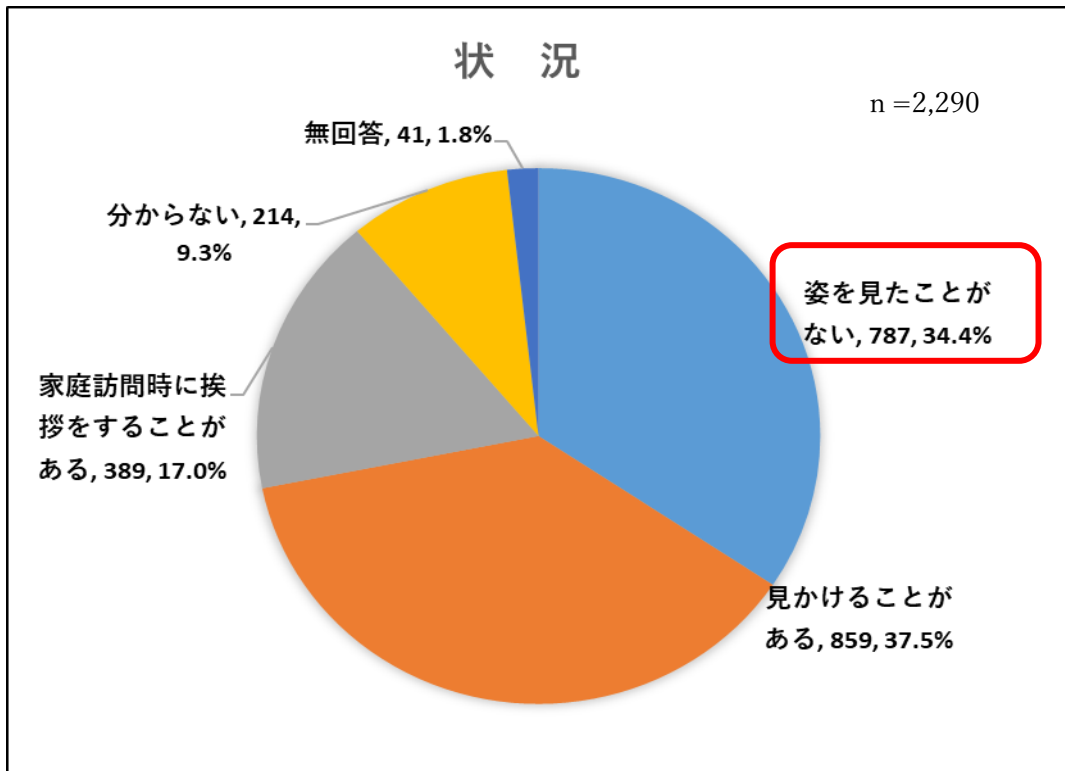


表6

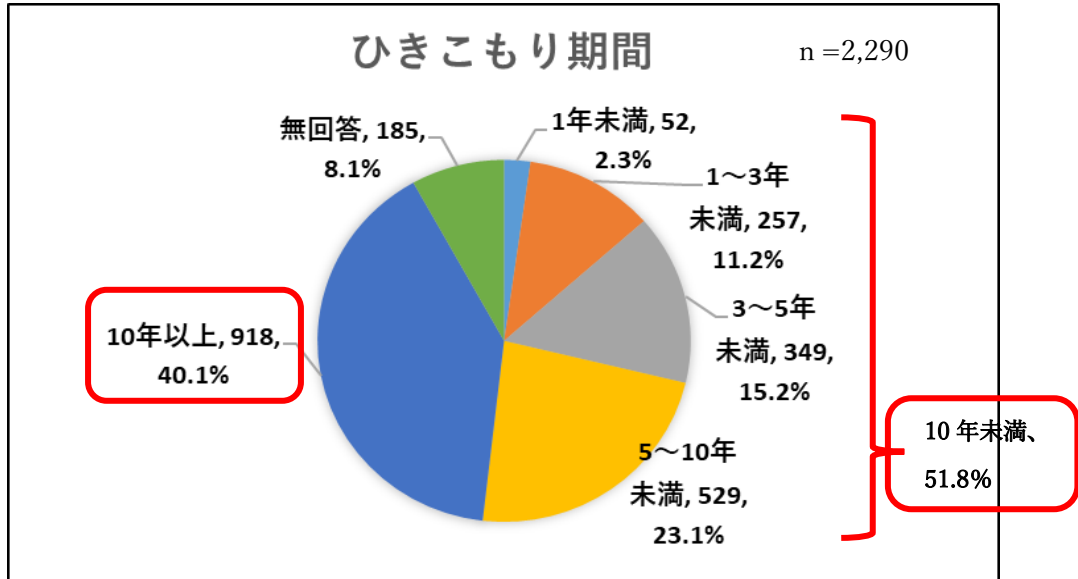
(単位：人)

年代	姿を見たことがない	みかけることがある	家庭訪問時に挨拶をすることがある	分からない	無回答	合計
10歳代	46	42	10	14	4	116
20歳代	82	75	33	31	4	225
30歳代	193	204	42	37	8	484
40歳代	223	264	99	62	5	653
50歳代	158	178	131	50	6	523
60歳代	70	83	70	10	3	236
不明	15	13	4	10	11	53
合計	787	859	389	214	41	2,290

(7)ひきこもり等の状態にある期間

- ひきこもり等の期間が短い「5年未満」までの期間の割合が28.7%となっている。
- 「10年未満」までの期間の割合が51.8%、一方「10年以上」に及ぶ期間の割合が40.1%となっている。
- 10歳代では「1～3年未満」の数が最も多く、20歳代では「5～10年未満」の数が最も多い。
- 30歳代からは「10年以上」の数が最も多くなっており、特に40歳代・50歳代では概ね半数が10年以上、ひきこもり等の状況にある。

グラフ 6-1



グラフ 6-2

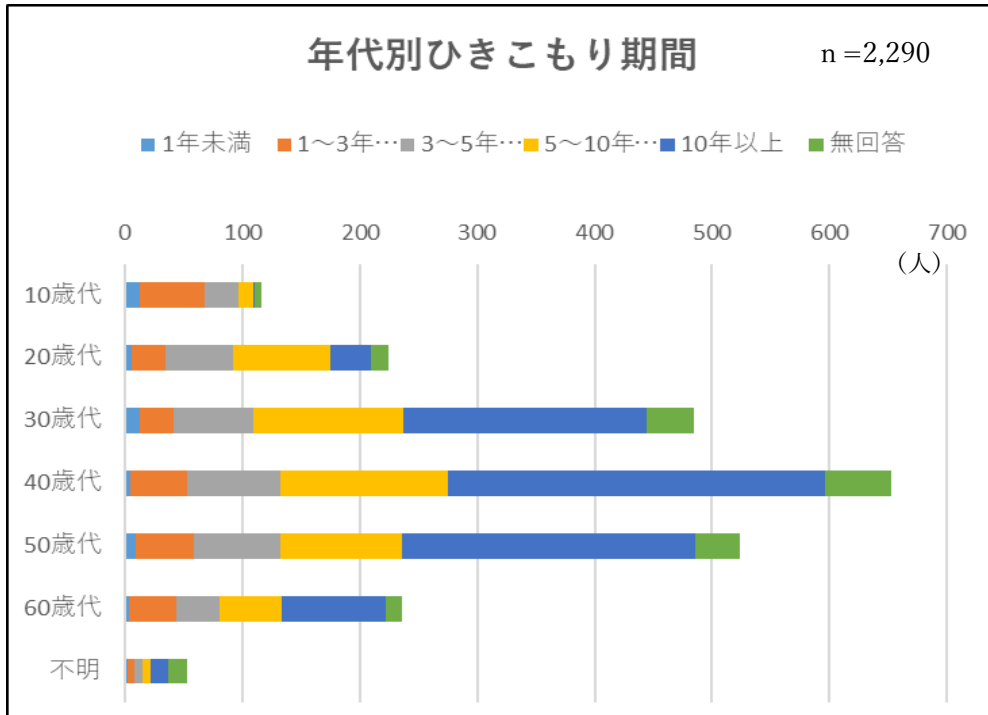


表7

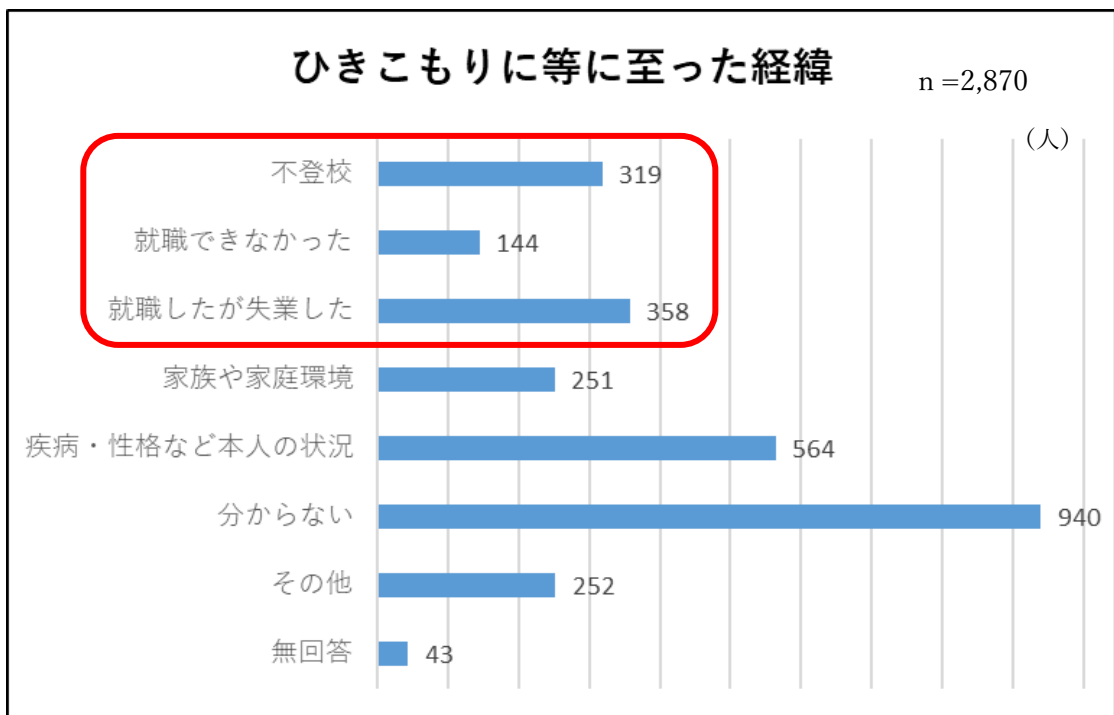
(単位：人)

年代	1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上	無回答	合計
10歳代	13	55	29	12	2	5	116
20歳代	6	29	57	83	34	16	225
30歳代	13	29	67	128	207	40	484
40歳代	5	48	79	143	321	56	652
50歳代	9	50	73	104	250	38	524
60歳代	4	40	37	52	89	14	236
不明	2	6	7	7	15	16	53
合計	52	257	349	529	918	185	2,290

(8) ひきこもり等に至った経緯(複数回答可)

- 「わからない」が 940 人と最も多く、全体の 32.7%を占めている。民生委員・児童委員の把握の困難さを示していると考えられる。
- 経緯でわかるものでは、「疾病・性格など」、「就職したが失業した」、「不登校」の順に多い。
- 経緯がわかるもののうち、10 歳代・20 歳代では、「不登校」を経緯する数が最も多い。(それぞれ、67.1%、24.4%、)
- 経緯がわかるもののうち、「失業」を経緯としたものは、50 歳代(15.5%)で最も割合が高く、40 歳代(15.3%)、30 歳代(12.5%)と続いている。

グラフ 7-1



グラフ 7-2

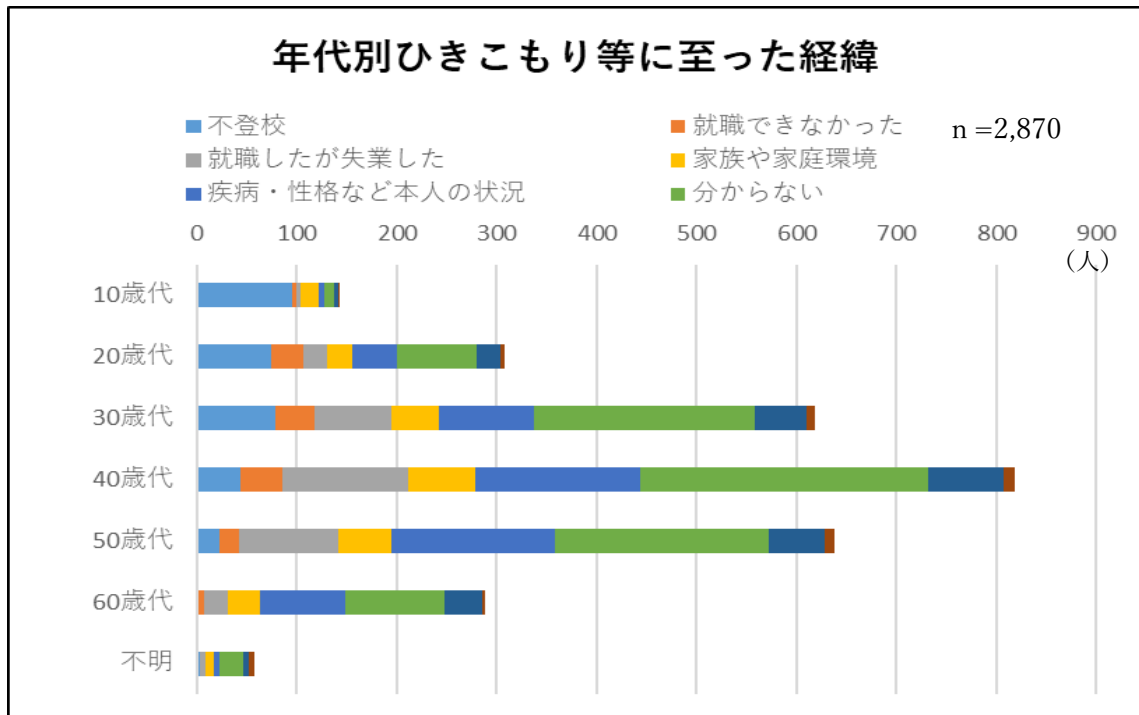


表8

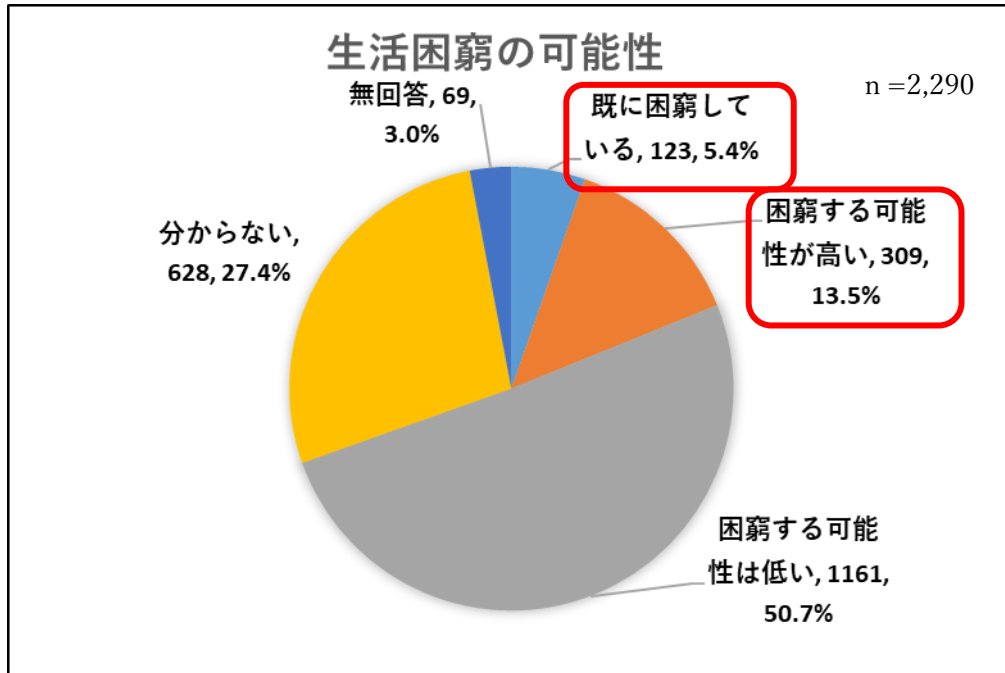
(単位：人)

年代	不登校	就職できなかった	就職したが失業した	家族や家庭環境	疾病・性格など本人の状況	分からない	その他	無回答
10歳代	96	4	4	18	5	11	4	1
20歳代	75	32	23	25	45	80	24	4
30歳代	79	39	77	47	95	222	51	8
40歳代	43	43	125	67	166	288	75	11
50歳代	22	20	99	54	163	215	55	10
60歳代	1	6	24	32	85	100	37	3
不明	3	0	6	8	5	24	6	6
合計	319	144	358	251	564	940	252	43

(9) 生活困窮の可能性

- 「困窮する可能性は低い」が 1,161 人と最も多く、全体の 50.7%を占めており、次いで「分からない」が 628 人(27.4%)となっている。
- 「困窮する可能性が高い」が 309 人(13.5%)、「既に困窮している」が 123 人(5.4%)おり、合計で 432 人(18.9%)が生活困窮の状態にある(近い)ことが推測される。
- 年代別にみると、「困窮する可能性が高い」と「既に困窮している」を合わせた者の割合が 10 歳代から 30 歳代までは 12%前後となっているが、40 歳代では 18.8%、50 歳代と 60 歳代では、30%近くに達しており、ひきこもり等の状態にある中高年層において、生活困窮の可能性が高いことが推測される。

グラフ 8-1



グラフ 8-2

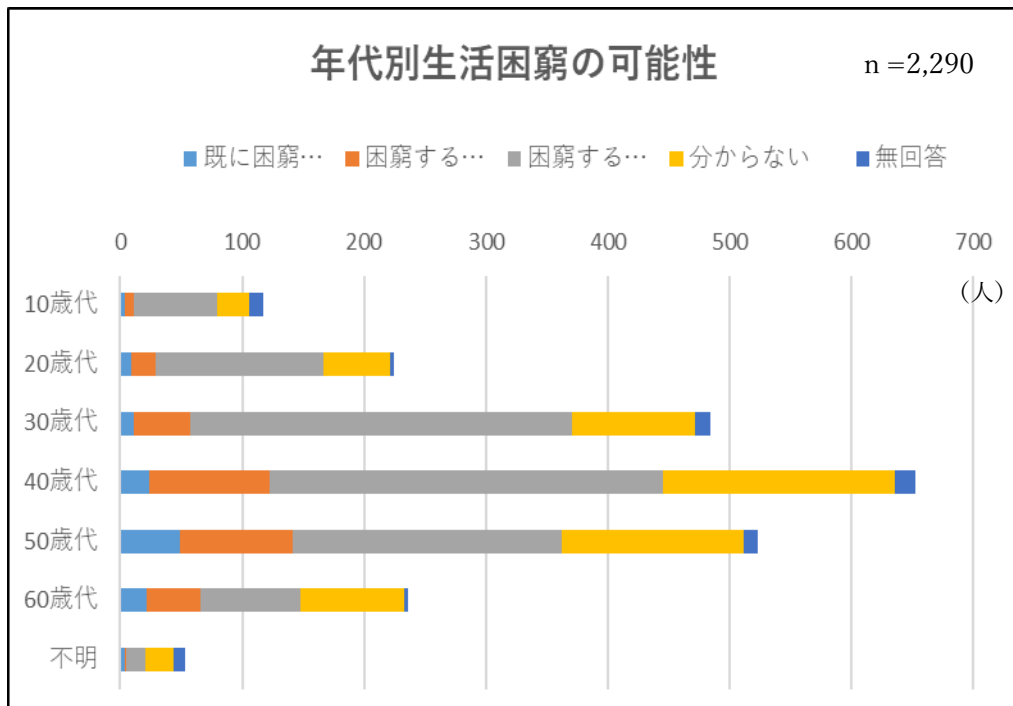


表 9

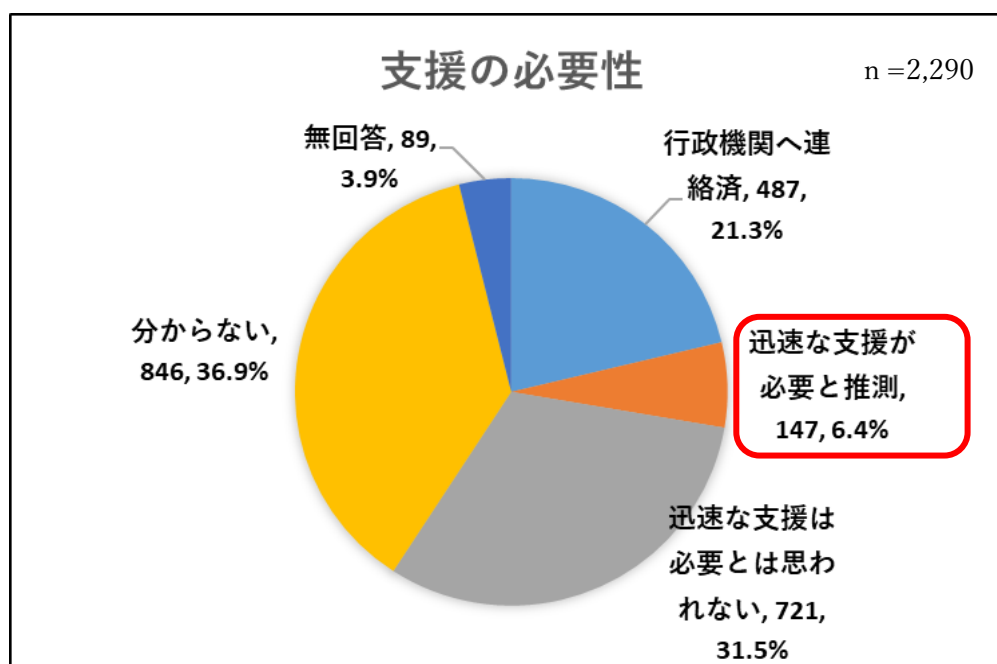
(単位：人)

年代	既に困窮している	困窮する可能性が高い	困窮する可能性は低い	分からない	無回答	合計
10歳代	4	7	68	27	11	117
20歳代	9	20	138	54	4	225
30歳代	11	46	314	100	13	484
40歳代	24	99	322	190	17	652
50歳代	49	92	221	149	12	523
60歳代	22	44	82	85	3	236
不明	4	1	16	23	9	53
合計	123	309	1,161	628	69	2,290

(10) 今後の支援の必要性

- 「わからない」が 846 人と最も多く、全体の 36.9%を占めている。「ひきこもり等に至った経緯」同様、民生委員・児童委員の把握の困難さを占めていると考えられる。
- 「迅速な支援は必要とは思われない」が 721 人(31.5%)と次に高くなっている一方、「迅速な支援が必要と推測する」が 147 人(6.4%)となっている。
- 「迅速な支援が必要と推測する」者(147 人)のうち、中高年層(40 歳代から 60 歳代)が 103 人おり 70.1%を占めている。

グラフ 9-1



グラフ 9-2

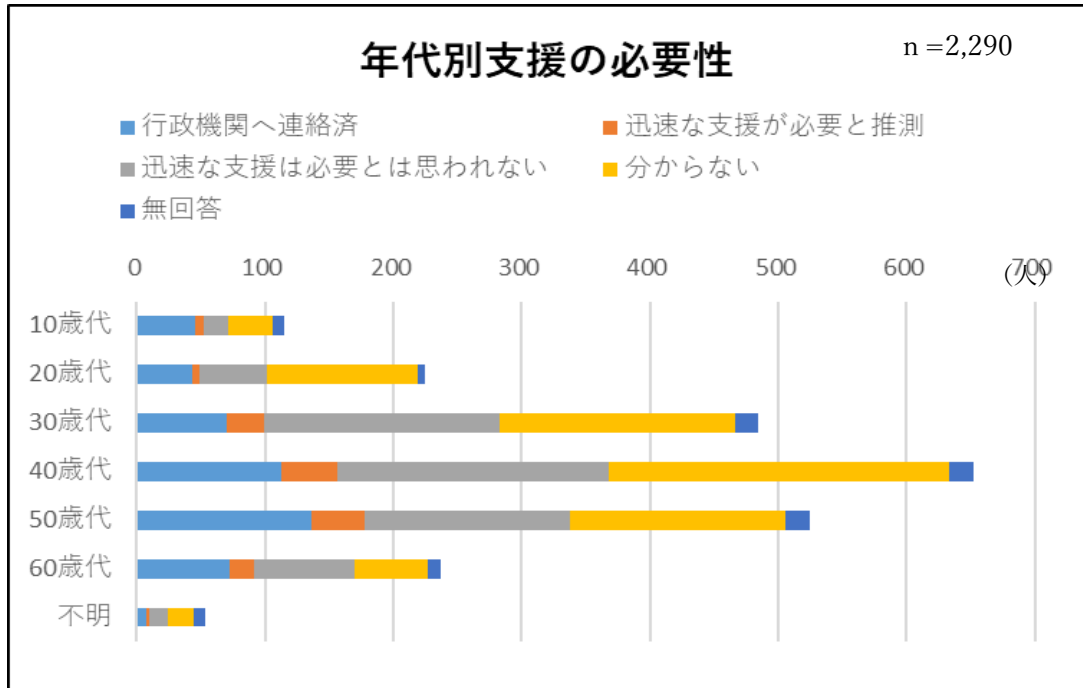


表 10

(単位：人)

年代	行政機関へ連絡済	迅速な支援が必要と推測	迅速な支援は必要とは思わない	分からない	無回答	合計
10歳代	46	6	19	35	9	115
20歳代	43	6	52	118	6	225
30歳代	70	29	184	183	18	484
40歳代	113	43	212	265	19	652
50歳代	136	41	161	168	18	524
60歳代	72	19	79	57	10	237
不明	7	3	14	20	9	53
合計	487	147	721	846	89	2,290

(11) 自由記載意見から

- ・市町村で、ひきこもりにかかる情報を把握しているならば民生児童委員とも情報を共有して欲しい。情報の共有を図る会合を開催して欲しい。
- ・一人暮らしのひきこもり状態の方など、情報の入手方法がない。定期的に訪問はしていても、健康状態などを聞いても答えてくれないし、経済状況など聞く事はばかれる。市町村から、最低限の情報だけでもいただけると訪問時の声かけにも活用できるし、その情報をもとに見守る事もできると思う。
- ・中学での不登校生の状況、高校で中退した生徒の情報等、主任児童委員くらいには提供していただき、ひきこもり早期から見守りをしていくことが大切ではないだろうか。
- ・このアンケートは把握することによって今後の民生児童委員としての活動が更に気の入れ方が違ってきます。是非、調査結果をフィードバックして欲しい。
- ・ひきこもりはデリケートな問題で、ご家族も解決できないし、地区でもどう接したら良いか分からないでいる。ご本人やご家族が集まれる公の場所があればと思います。
- ・ひきこもり等に関して、国・県・市で連携して専従の職員を配置するなど、もっと濃い対策をしていただきたい。民生委員として、個々のお宅の方への対応は困難で、限りがあると思います。
- ・「まいさぽ」や若者サポート相談（18歳～40歳）に加えて50代（60代）でも相談できる身近なところを作って欲しい。（どんなことでも相談できる駆け込み寺のようなところって、これからの社会に必要な気がします。）
- ・専門的な知識、経験を有する人材を多く確保して欲しい。数だけでなく質の高い方を。家族も途方にくれている方がいる。医療・カウンセリング、多方面からアプローチを。その反面、そっと見守るサポートも欲しい。
- ・隣近所、顔の見える地域なのでひきこもり等の現状は見られません。普段からの地域の集まり声かけ等が大切に思われます。